

「自律・友愛・創造」
 ～ 夢を育み、笑顔に会える、愛いっぱいの学校 ～

茨木市立三島中学校
 生徒指導通信
 第4号
 生徒指導委員会

PROGRESSO **防災** **継続**

中学3年間で『高校を卒業する力』
 『仕事を続けていく事のできる力』をつけよう

日本は世界でも地震が非常に多い国です。世界で起こるマグニチュード 6 以上の地震の約20%が日本周辺で発生しているといわれています。

■今後、大阪で想定される地震



南海トラフ巨大地震

静岡県駿河湾から九州東方沖まで約700kmにわたって続く南海トラフ沿いで、地震が連動して発生し、巨大地震になる可能性が指摘されています。その場合、東日本大震災を上回る大きな被害が、西日本を中心に広い範囲におよぶと言われています。



上町断層帯地震

豊中市から大阪市を経て、岸和田市に至る長さ42kmの活断層で、断層帯の東側が西側に乗り上げる逆断層です。阪神・淡路大震災と同様の内陸直下型地震が起こると言われています。

2年前の6月18日、大阪北部地震を被災者として体験しました。大きな揺れを体験した後の数日、数週間は次の余震に備えて緊張していた日々が続き、いざ起こったらどうしようかと日々考えた人も多かったのではないかと思います。

1995年1月17日早朝に起こった阪神淡路大震災。2011年3月11日に起こった東日本大震災。甚大なる被害が出た大地震です。そして、今後30年以内の発生確率が80%ともいわれている南海トラフ地震。最悪の被害ケースは東日本大震災の10倍以上とも言われています。

三島中学校でも、学期に1度、避難訓練を実施しています。(1学期は1年生のみ)
 いざという時を想定する訓練だということを頭に入れておいてください。雰囲気を作るのは一人ひとりの気持ちです。天災は忘れた頃にやってきます。

学校での地震対応について



① 自分の身を守る

授業中・休み時間・登下校中、大きな揺れを感じたら、机の下に入るなどの頭を守る行動をとる。倒れてくるもの(本棚や靴箱など)、落ちてくるもの(ガラスや瓦など)から離れる。(大きな揺れが1～2分続くときもある。)

② 指示を聴く。避難する。

安全な場所に避難します。学校では原則運動場です。学校では多くの人数が移動します。指示を聴けるようにしましょう。(停電で放送が使えないことも想定されます。)登下校中は、距離にもよりますが、学校が無難だと思います。



③ 移動は落ち着いて。

学校内では、渡り廊下の使用や、渡り廊下の下を通ることは危険が予想されます。できるだけ使用しないようにしましょう。また、非常階段は使用しません。落ち着いて階段を下りてガラスなどの落下物に注意して運動場に出ましょう。

④ クラスで整列、静かに待機。

運動場で最優先されるのが点呼による安全確認です。全員の命と安全を守らないといけません。誰がいないのかを瞬時に把握することで、怪我をして逃げ遅れている生徒を助けることが出来ます。運動場に出たら、すぐにクラスで整列し静かに座って待機してください。余震の発生や、火災の発生も考えられます。ここでの安全確認がお互いの命を守るということにつながります。静かに待機しましょう。

この機会に考えてみよう！！

- ・過去の地震では、どのような被害が出たか知ってる？
 (阪神淡路大震災 東日本大震災 大阪北部地震)
- ・家族の避難場所は、どこか知ってる？
- ・登下校中に危ないところはないか、確認してみよう。
- ・自分の寝室(寝ている時)に倒れてくるもの、危険なものが近くはないか確認してみよう。

《みんなで備える防災》を読んで、いざという時のために備えておきましょう。